

体表面のケガや顔の骨折をはじめ、皮膚および皮下の腫瘍、腫瘍切除後の再建、体のさまざまな部位の傷痕や引きつれ、変形といった幅広い治療に対応しています。

近年は乳がんの増加に伴った乳房再建手術の件数が増加しているほか、老化による眼瞼下垂の手術も数多く手掛けています。

とりわけ顔面は手術の仕上がりが顔全体の印象を大きく左右するだけに、繊細かつ高度な技術力のもと、患者さま一人ひとりの要望をくみ取るべく、きめ細かな診療を実践しています。外科的手技、レーザー治療など多彩なアプローチで、先天異常の他、病気、事故、老化など広く、後天な変形についても、形態・機能の改善を図っていきます。

乳幼児の場合など、特殊な診療や治療が必要な場合も、適切と思われる大学病院などに紹介しますので、まずは当科にご相談下さい。



担当医師紹介



部長
丹生 淳史

(にう あつし)

形成外科専門医
日本形成外科学会会員
日本美容医療協会会員
乳房再建施設代表責任医師
医学博士



医員
播摩 光宣

(はりま みつのぶ)

医師緩和ケア研修会修了